



子どもを守るために

ネットの世界は日々進歩しています。犯罪にネットが使用され、ニュースで毎日のように報道されています。もちろん、ネットのシステム自体が悪いわけではなく、使い方に問題があります。

人類は、キリストの生誕の前後でA C、B Cと二つに分けています。おそらく、後世の人々はネット誕生の前後で時代を分けるのではないかとされています。それほどネットは人類に大きなインパクトを与え、世界を根底から変えています。

良薬と毒薬とは紙一重です。人類にとって便利なものには、便利であればあるほど大きな危険が潜んでいることも事実です。

火は、人類に明かりと暖かさを与えました。それだけでなく、焼く、煮る、蒸すなどの調理方法も人類に与えました。食の世界が一気に広がりました。しかし、火は使い方を誤ると大怪我をします。火事は全てを焼き尽くし、時には命さえ奪うこともあります。

言葉も同じように人類にとっては、とても便利でありなくてはならないものです。

聖書は「初めに言葉ありき」という文から始まります。神が最初に生み出したのは「言葉」でした。



日本には「言霊」という思想があります。言葉は神秘的な力を持ち、言霊の力により言葉の通りに物事が起こる、と信じられています。昔のことではありません。現在でも結婚式には、忌み言葉として「切れる」「分かれる」という言葉はタブー視されています。日常生活においても「縁起の悪いことは言うな」と叱責されることもあります。

平安時代、天皇のお世話をする女官のことを「内侍（ないし）」と言いました。内侍は、天皇が代わればそれ相応の財産をもらい、隠居生活に入るのが普通でした。歌人として有名な小野小町は、歌人としての高すぎる能力のため、恐れられました。次の天皇から当然もあるべき財産をもらえず、不遇な晩年を過ごしたと言われています。

言葉にはそれだけ大きな力があると考えられていたし、今も考えられています。

言葉に責任の持てない年代には、Facebook やTikTok などに制限をかけるのも仕方ないと考えます。制限をかけることが、子ども達を守ることになると思うからです。

昭和の偉大な教育者である森信三先生が、

「生徒についてテレビの視聴を制限できる教師には、給料を倍にしてもよい。」

と発言されていました。今なら、SNSの使用の制限ということになるのでしょうか。

子どもを守るためにも、言葉は大切にしたいものです。

榎本小学校 校長 篠崎 勇